

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 会社を潰さないための三つの実践 松浦 元男 (樹研工業社長)

1. 20 年前までは、私たち中小製造業が加工技術を磨き、それを大企業が応用する、というサイクルができていた。それが今ではすっかりなくなりました。代わりに増えたのが韓国サムスン電子の視察です。日本の大企業が中小企業の技術に興味をなくした背景には、各社で部品の内製化が進んだことなど、様々な理由があると思います。いずれにせよ、このままでは日本の新製品開発力はますます衰えていくことでしょう。
2. 国内市場は成熟し、輸出も円高と製品競争力低下で期待できない。その結果、5 年後の 2017 年には、内需型企業、外需型企業を問わず、大企業は今まで以上のリストラの嵐に見舞われ、中小企業もこれまでにないレベルで倒産が続出すると思います。ただ、すべての企業が 2012 年以降、破綻に向かうわけではありません。
3. 潰れない会社というのは、意外に簡単に作ることができます。守るべきは「手形をやめる」「毎月決算する」「きちんと税金を払って資本を充実させる」の 3 点です。リーマンショックの後、樹研工業の売上高は、一時的に前年比 8 割減という状況に陥りましたが、資金繰りに困ることなく、今も会社を存続させることができています。  
(参考:「日経ビジネス」2011 年 12 月 26 日・2012 年 1 月 2 日号)

## 経営者のための経済学

### 20 カ国を等距離で見る

#### 大前 研一 (ビジネス・ブレークスクール大学学長)

1. 日本企業がグローバルに戦おうとするならば、米中 2 カ国だけでは済まない。インドや ASEAN (東南アジア諸国連合)、ベトナム、インドネシア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン、メキシコ、イラン、イラク、ナイジェリアなどのおよそ 20 カ国を等距離で見る必要がある。こうした国々には日本並みである経済的な中間層が 4 億人もいる。特に ASEAN で注目すべきは、ミャンマーだ。
2. 21 世紀の世界秩序は、日本人が考えている以上に多様で複雑なフォーメーションになる。政府も民間企業も日本が目指すべきは、多極的な外交であり行動だ。世界第 2 位の経済大国という「ボリューム国家」から、スイスやデンマークのような「クオリティ国家」に進む道を今や真剣に考えないといけない。

(参考:「週刊東洋経済」:2012 年 1 月 14 日号)

## 経営者のための危機管理

### 廃業は倒産の 2 倍

1. 今、多くの中小企業の経営者が廃業の決断を下している。東京商工リサーチによれば、2010 年の休廃業・解散件数は、倒産件数の約 2 倍の 2 万 6808 件にも上る。しかも前年比 103.7%と、ここ数年、増加し続けているのだ。また業種別の廃業率で見ても、小売り業や卸売業などで、高い廃業率が目立つ。
2. その背景には、業績がよかろうと悪かろうと、まずは「後継者が決まらない」という中小企業に共通の悩みがある。年齢別の後継者決定状況は、60 歳以上でもざっと 3 割程度が決まっていけないのである。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2011 年 12 月 17 日号)

## 古典に学ぶ

### 常識とは、「智」「情」「意」のバランスのことである

「智・情・意の三者が各々権衡を保ち、平等に発達したものが完全の常識であろう」

(解説) 知恵、博愛、そして意志一。この三つをバランスよく育て、備えていること、それが「完全な常識がある」ということである。

(参考: 渋澤 健「渋沢栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)